



HP

南千住 レポート

まちづくり・
くらしの情報を
とどけます

相馬ゆうこ事務所

荒川区南千住5-1-6・2階

☎・FAX 3807-4192

区議団控え室（荒川区役所内）

☎ 3802-4627

FAX 3806-9246

✉ arajcp@tcn-catv.ne.jp

araken-nan.jugem.jp

新庁舎・サンパール移転計画に2案を提示

9日、本庁舎とサンパール建替えのため「新庁舎整備基本構想・基本計

画策定委員会」が開かれ、必要な施設規模と配置案などが示されました。



区は本庁舎・北庁舎や分庁舎等を新庁舎に集約した場合、執務職員1,783人×21.3㎡/人を想定。窓

ロスペース等の拡大、食堂・会議室や倉庫なども含めると必要面積は「延べ3.8万㎡」に。建蔽率80%と容積率600%（一部300%）をふまえ、現在の7階建てから「地下2階～地上13階」の建設規模を見込んでいます。

サンパール 建替え計画では、現本庁舎と荒川公園
移転が有力に 園、北庁舎の敷地などをあわせた2.6
畝に新庁舎とサンパール荒川（区民会館）を移転し、
公園も再整備するとしています。コスト削減のため
「仮庁舎は建設せず」、現庁舎を利用しながら敷地内
に新庁舎を建設。新庁舎とサンパール荒川などの配置
については、区民会館を新庁舎の東側につくるA案と
西側につくるB案の2案を提示し、今年度中に決定す
る予定です。



建築費高騰で どうなる？

建替え費用
は、22年度時
点で総額200億
円を見込み、30
年度までに100
億円を積み立
てる計画です
が、サンパー

新庁舎の配置案



(A) 一体感
を維持しつつ
機能を分離



(B) 緑に
囲まれた庁舎
・区民会館

ルの移転と公園の再整備費用については明確にされておらず、建築費高騰で整備費用の増大も懸念されます。みなさんのご意見もお寄せ下さい。（裏面へ）

気を付けて…区内の熱中症搬送が増加

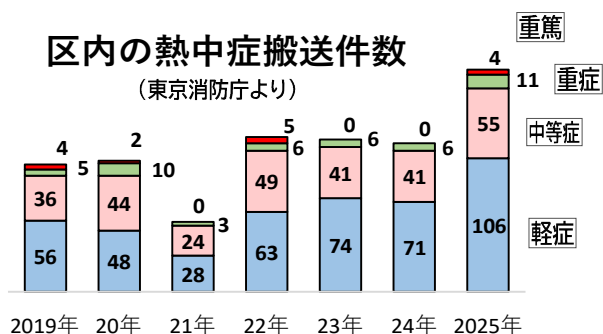
いよいよ真夏日、猛暑日がつづき、熱中症にお気を付けください。

昨年夏（6～9月）の熱中症による搬送者は都内で9,125人、荒川区



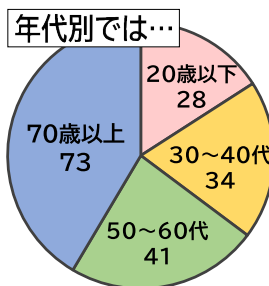
区内の熱中症搬送件数

（東京消防庁より）



では176人で、2019年以降最多でした。区内では約6割が軽症でしたが、中等症が55人、重症・重篤の方も15人に。年代別では「70歳以上」が73人で約4割ですが、若い世代の搬送者が以前よりもふえています。体力がある方でも油断せずに気を付けてほしい。

室内・単身者 また、熱中症により残念ながら亡くなった方が**危険です** 23区全体で193人にのぼりました。そのうち約9割の181人が自宅など屋内で、エアコンを使っていなかったケースが約7割（121人）です。さらに「一人住まい」の方が9割超で、単身者の危険度が高い実態です。



単身者の場合「自分ひとりなら」と暑さを我慢してしまった

熱中症死亡者の状況

（東京都監察医務院より）

		エアコンなし		エアコンあり	
				使っていた	使っていなかった
家族と同居	29 (16%)	9	16	2	14
単身住まい	152 (94%)	14	133	26	107
計	181 (100%)	23 (13%)	149 (87%)	28	121

り、高齢で暑さを感じにくくなり冷暖房を取り違えて体調が悪化するケースも。東京都は昨年につづき夏の4か月間の水道基本料金を無料にし、エアコンの利用を控えずに暑さ対策をと訴えています。



問われる 区の姿勢



2022年以降、都内で200～300人が毎年熱中症で亡くなっています。都市部では気候変動とヒートアイランド現象で猛暑が深刻化し、単身者や低所得者など社会的に弱い立場の人々への影響が大きい。命を守る見守りや本気の経済支援、気候変動対策と自然エネルギーのまちづくりを区として独自に取り組みたい。

〈法律・生活相談〉

8月の定例法律相談日は お休み です

ご要望やご相談などは随時ご連絡ください。毎月第二木曜日の事務所の定例法律相談はお休みですが平日の昼間に法律事務所（北千住）で可能です。予約が必要です。お名前と電話番号等を下記の留守番電話に録音して下さい。

相馬 ゆうこ事務所 南千住5-1-6・2階 ☎ 3807-4192

区民の声～「個人情報保護」「利用しやすい窓口」

区が今年4月～5月にかけて行った新庁舎に関するアンケートには、700人から回答が寄せられました。



「機能面で重視すること」「情報セキュリティの強化」と「利用しやすい窓口」が最多に。「デジタル化の充実」とともに区民に寄り添った窓口整備と職員対応が求められます。

区は新庁舎整備にあたり「人々が集える庁舎」にするとして交流スペースなどの整備を計画していますが、アンケートでは交流スペースを重要とする回答は少数でした。

「あったらいい」のは「新庁舎にあったらいいと思うもの」では「食堂・カフェ」が最多に。回答者700人中500人以上が希望しています。近隣に飲食店が少なく、職

員数を考えれば食堂は必須と思います。区民にとっても使いやすい価格設定に、足立区では区役所の食堂を子ども食堂として活用しており、荒川区でも区民の支援につながるような工夫もしては。

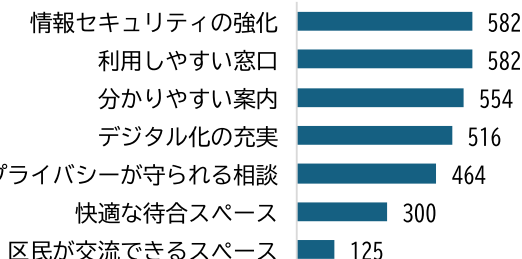
次いで「売店・コンビニエンスストア」「ATM」など



日常に便利

な施設の希望も。一方で自由意見では「建設コストを抑えてほしい」など建設費に心配の声も。区民の要望を取り入れつつ、利用者にとって使いやすく、職員が働きやすい庁舎となるよう、考えたい。

【重要だと思う機能】



「庁舎にあったらいいと思うもの」



8月の
金曜日は

都立美術館など夜間延長、料金割引に

8月の毎週金曜日、都立の美術館や博物館など開館時間を21時まで延長し、17時以降は割引料金となる「サマーナイトミュージアム」が開催されます。

開催日：8月7、14、21、28日の4日間 ※東京都写真美術館は木曜日実施

対象施設：江戸東京博物館、東京都美術館、東京都写真美術館、

東京都現代美術館、庭園美術館、渋谷公園通りギャラリー

料金：17時以降は学生無料、一般・65歳以上は団体料金に割引
常設展、企画展のほかミニコンサートも。ぜひお出かけを



都の無痛分娩助成～申請数が想定超え

都は昨年10月から無痛分娩にかかる費用に最大10万円の助成を開始。申請数は10月～3月の半年間で1万2000件を超え、想定していた9,500件を大きく上回りました。

区内でも 助成対象の医療機関は都内
ふえています 128施設（4/1時点）で、区内では「リバーサイド病院」（南千住8）と「あらかわレディースクリニック」（町屋1）の2か所のみ。リバーサイド病院のホームページを見ると、無痛分娩の取扱件数は



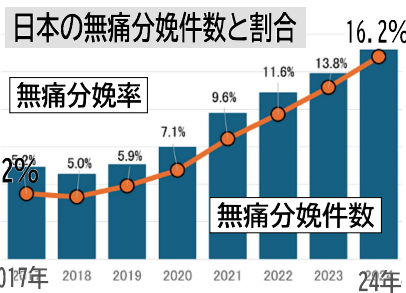
は2025年402件で前年より58件増加。また、あらかわレディースクリニックの無痛分娩予約は来年2月までほぼいっぱい。とくに初産で無痛分娩を選ぶ方が、区内でもふえているようです。



支給に遅れ！ ところが、申請数の増大と書類の不備が約6割にあり、実際の支給件数は申請数の2割に満たない2,000件にとどまっているとのこと。医療機関の領収書や診療明細書に無痛分娩にかかる費用の明記がなく、不備とされるケースが多いそうで、必要書類について改めて周知するとともに、都として医療機関の事務負担について把握し、より良い制度に改善してほしい。都の職員のみなさんも大変です。

安心安全の取り組みを ヨーロッパをはじめ無痛分娩が定着している国も多くありますが、日本では2024年16.2%といまだ2割未満です。東京都は35.8%で他の道府県より高くなっていますが、引き続き費用負担や医療スタッフ・麻酔科医の不足など課題も。

区内の対象機関の、無痛分娩の追加費用は15万円、助成があっても結局持ち出しに…



全国でも取手市、備前市、千葉県いすみ市など複数の自治体で無痛分娩の費用助成を実施しています。女性が自分の体のこととして選択できる社会へ、希望する方が安心して無痛分娩を行える支援と安全の医療体制整備に国・都・区が取り組むことを求めます。

ご意見・ご質問頂きました ○「とにかく毎日買物に頭がいたい、国会ではこんな庶民の生活のことは議論にならないらしい。深夜、早朝からのサッカーに時間を費やしているうちに、皇室の話や個人情報保護の法律改定でも、何かとても息苦しい社会になっていくような気がする」と無党派という方からメールが。政府は物価対策に3兆円の補正予算を組んだのだが、何も実行されない。都も区も法人税・固定資産税の税收増でお金はある。区独自でもできることを実行したい。

